

編集後記

今年度より編集委員を拝命致しました鹿児島市立病院糧（もみ）でございます。この場をお借りして、ご挨拶を申し上げます。編集後記は今回初めて担当いたします。至らない点が少々ございますが、精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、鹿児島市医報第65巻第8号の誌上ギャラリーは、東史子先生の“水滴に映り込むひまわり畑”です。葉っぱに乗った水滴に、その向こうに広がるひまわり畑が鮮やかに映り込んでいます。よく見ると水滴の中の畑が逆さまに映っていて、背景の大きなひまわりの花と相まってとても可愛らしい一枚になっています。

論説と話題では、いまきいれ総合病院小児科今給黎先生より、アナフィラキシー用の点鼻薬ネフィーについてご紹介いただきました。注射製剤と同程度の効果があり、使用が容易であることから、使用を躊躇する患者さんが減るかもしれません。

医療トピックスでは、池田琢哉先生から、糖尿病性腎症重症化予防のためのパネルディスカッションについてご報告いただきました。

緑陰随筆では鹿児島県臨床工学技士会岡村様、鹿児島大学乳腺甲状腺外科学教授中条先生、鹿児島県レクリエーション協会会長古木様、KKB鹿児島放送代表取締役社長後田様、鹿児島県臨床検査技師会会長有村様、鹿児島市保健所所長新小田先生、栗先生、鹿児島県言語聴覚士会湯田様の皆様よりご寄稿いただきました。大変興味深い内容になっています。

学術では南風病院糖尿病・内分泌内科上ノ町先生より、重症糖尿病性ケトアシドーシス（Diabetic Ketoacidosis : DKA）の症例についてご寄稿いただきました。36歳女性の患者で、妊娠糖尿病発症1年後にDKAを発症、不幸な転機をたどられた症例です。本症例では出産後の医療の介入が無かった可能性があり、妊娠糖尿病症例では、出産後の適切なフォローアップの重要性が強調されています。

医師会病院だよりでは、外科部長前田先生より近況についてご報告をいただきました。同科では医師不足の中で多くの消化器疾患、乳が

ん・甲状腺疾患の手術を行われ、鹿児島市の医療に大変貢献いただいています。

随筆・その他では、鹿児島県立大島病院初期臨床研修医川野先生より、6名のご友人との奄美大島旅行記を通じて、奄美大島の魅力をたくさんレポートしていただきました。

区・支部だよりでは、荒田、谷山の第1回支部会について、支部長の本原先生、井内先生よりご報告いただきました。それぞれ豪華な来賓の方をお迎えして、盛会であったようです。

各種部会だよりでは、鹿児島市外科医会総会と鹿児島市在宅医会総会、鹿児島市医師会勤務医会総会・研修会についてご報告いただきました。外科医会総会では、議事終了後には鹿児島大学侵襲制御学分野教授松永先生より特別講演をいただいています。在宅医会総会では会長選挙が行われ、久松憲明先生が次期会長に選出されています。勤務医会総会・研修会では、鹿児島医療センター脳卒中センター長松岡秀樹先生より講演をいただいています。

各種報告では、鹿児島市医師会第5回理事会の概要と本誌7月定例編集委員会、令和8年度第2回支部長会について報告されました。支部長会では医師会病院や臨床検査センターなどの利用方法などについて案内されています。

附属施設だよりでは、医師会病院と検査センターの実績が報告されています。

鹿市医狂壇は、「日傘」がテーマです。近年日傘をさして颯爽と歩いておられる男性も多く見受けられます。私も徒歩通勤時に日傘をさして若干の気恥ずかしさを感じていましたが、吉野なでしこ先生に勇気をいただきました。

サッカーのワールドカップはスペインの優勝で幕を閉じました。無敵艦隊と称されるスペインサッカーチームですが、このスペインを最後に敗者にしたのが4年前のサムライブルー日本代表でした。今回はベスト32で涙を飲みましたが、4年後の100周年記念大会ではぜひリベンジを果たしてもらいたいです。

（編集委員 糧 博晃）